

視察報告書 2024.12.22-23 四条畷市電子投票選挙について

町田市議会無所属会派 吉田つとむ 2024.12.30 提出

大阪府四條畷市の市長、市議補選の投票施設と投票状況の視察、及び開票所と開票作業の視察報告書

四條畷市と、今回の選挙結果の数字について

大阪府四條畷市は、大阪市の東側の北河内地域にあり、市の東側にある生駒山を境に、奈良県に接している。人口： 5.497 万 (2022 年 1 月 31 日)面積： 18.74 km²人口密度： 2,858 人/ km²。市域の 3 分の 2 が生駒山となっており、住宅地の密集度合いが高い。死何には、大阪府寝屋川市との境に、全国有数の規模を誇るショッピングモールであるイオンモールがあり、両市へのバス移動の拠点になっている。



市長は、全国最年少で当選した東修平氏が 2 期で引退し、後継者をネットの就職情報サイトで募集し、200 人以上の人が応募して、候補者を決定したことで話題になっている。また、その市長選挙に電子投票選挙を導入することにしたこと、議会がその電子投票選挙導入に賛同し、予算化を承認し、実施した事でも話題になり、結果的に 8 年ぶりの電子投票選挙が実施され、

しかも、その市長選候補に、現職市議会議員が辞職して立候補することになり、市長と市議補選が同時選挙で行われる事態になっていました。

*なお、後継者の指名、辞退、同じ応募者の中から選ばれた候補者が、12 月 22 日の投開票によって市長選挙に当選された。



引退する東市長の写真が大きく入った市長候補の確認団体用ポスター

四條畷市長選挙 投開票速報（四條畷市のサイト）

<https://www.city.shijonawate.lg.jp/soshiki/55/68688.html>

（以下は、四條畷市の資料を参照して再構成。



	当日有権者数（最終）	投票者数	投票率
合計	44,901 人	19,102 人	42.54%
前回	45,696 人	20,310 人	44.45%

開票速報

候補者の氏名 最終

ぜにや 翔 9,989 票

渡辺 ゆたか 8,891 票

計 18,880 票

開票率 100%

有効投票 18,880 票

持ち帰り 0 票

無効 11 票

電磁的記録式投票機の

操作を途中で終了した者

211 人

「電磁的記録式投票機の操作を途中で終了した者」について

上記結果の「電磁的記録式投票機の操作を途中で終了した者」は、主として候補者選択画面右上の「投票せず終了」ボタンを押し、さらにその後の確認画面で再度「投票せず終了」を押した人の数です。

(候補者選択画面見本)

(候補者選択画面見本)

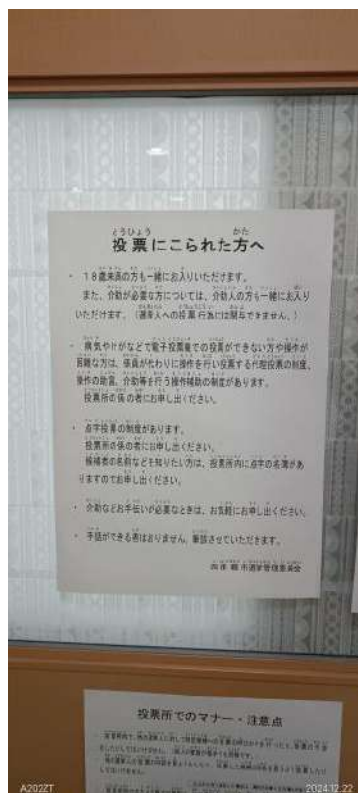
(確認画面見本)

投票に来たものの、立候補者中に投票したい候補がいなかった場合には「投票せず終了」を押すこととなります。

今回の四條畷市長選挙においては、「電磁的記録式投票機の操作を途中で終了した者」の211人すべてがこの「投票せず終了」を押した人でした。

＊（吉田つとむ注：上記のように記載されていました。このルールは電子投票選挙の固有の方法で、一般の紙による選挙の場合は、「白票」に相当するものです。

＊なお、「無効票」とされたものは、紙の投票用紙で候補者氏名で無いものが記載されていたり、あるいは最終的に読めない字で書いてあったりした場合などがこれに相当します。紙の投票用紙では一般的にあり得ることです。



なお、市議補選は候補者の氏名、得票数も同様の記載としました。

合計	44,901 人	19,086 人	42.51%
前回	45,274 人	19,826 人	43.79%

候補者の氏名	最終
ささべ 季湖	9,093 票
大原 よしたけ	9,128 票
計	18,221 票
開票率	100%
有効投票	18,221 票
持ち帰り	0 票
無効	6 票

電磁的記録式投票機の
操作を途中で終了した者
859 人

投票に来たものの、立候補者中に投票したい候補がいなかった場合には「投票せず終了」を押すこととなります。

今回の四條畷市議会議員補欠選挙においては、「電磁的記録式投票機の操作を途中で終了した者」の 859 人中、この「投票せず終了」を押した人の数が 857 人で、投票も「投票せず終了」も行わずに退出した方が 2 人でした。

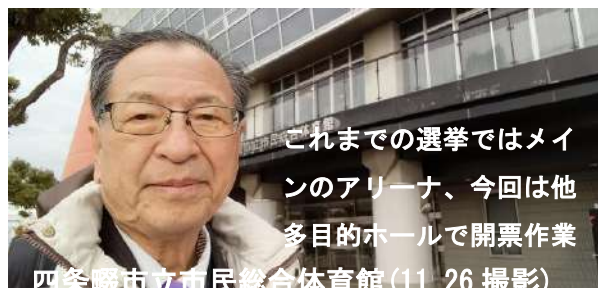
ただし、その 2 人についても投票をしない旨を係員に伝えた上で操作をやめて帰られたと聞いており、実質的には棄権の意思を有していた方と考えております。

(四條畷市のサイト、選挙管理委員会の管轄ページには以上の情報がありました)

＊(吉田つとむ注：) 電磁的記録式投票機の操作を途中で終了した者 859 人とあり、市長選挙の投票人と比べ、大きな人数となっていますが、これは補欠選挙の特徴とも言えるもので、吉田つとむが都議補選に立候補した時、大量の無効票(白票が大半)が出ており、当選者との票差を大幅に上回っていました。今回はもっとその傾向が出ており、市議選の落選者の心境が伺えるものです。

8 年ぶりの電子投票選挙が四條畷市で実施

この視察報告文は、2024 年 12 月 22 日に大阪府四條畷市の市長・市議補選で行われたことに伴い、現地の視察取材をして作成したものです。この報告文に先立ち、大阪府四條畷市の事前視察取材、議会の一般質問(電子投票の取り組みについて)を行いました。先に提出した視察報告書、あるいは議会の一般質問内容で報告したものです。



日本における電子投票選挙は 8 年ぶりで、大阪府四條畷市の市長、議会、及び選挙管理委員会の英断とも言えるものでしょう。

その理由は、可児市議選挙の可児ショックと称される電子投票結果の無効判決、紙の投票用紙を使った再選挙が行われ、当落者が入れ替わる大事件が起きたことによるものです。ただし、これらの電子投票選挙の 10 自治体の全部の電子投票選挙を見てきた者にとっては、原因と問題点は明らかでした。

他の電子投票選挙(1 台の投票機に 1 つの記録媒体)とは異なり、可児市は実用試験を経ないで複数の電子投票機を 1 つのサーバーに保存する方法を採用して、サーバーがオー

バーヒートし、投票機能が停止したものです。単体機（スタンドアローン型）を使えば問題は起きず、かつ、他の選挙のように予備機を準備しておれば、問題は発生しなかったものです。さらに、可児市は残りの時間にはサーバーを扇風機などで冷却しながら選挙の投票を続けたものでした。裁判で争われたのは、「停止した1時間ほどの間に帰った人の投票が出来なかった」ことで選挙判定の有効性が争われたのですが、選挙の当落者の票数の以上の人が投票所から帰ったことで取り返しがつかない問題が生じたものでした。

大阪府四條畷市の市長・市議補選では、単体機ごとに記録（USB メモリー）する方式が採用されているとのことで、可児ショックは起きないように、当初から計画されていたと言えます。

電子投票選挙の投票について

今回の電子投票選挙では、電子投票選挙初参入の「京セラ」が提供したシステムとタブレット機が採用され、投票が行われました。前回の四條畷市の取材時（11月30日）には、まだデモ機もメーカーから到着しておらず、タブレットを使った選挙というのは、スマホと同じように、あるいはタブレットのネット検索の中での書き込みのように、インターネット投票選挙と理解されている様相が見られました。＊これは、町田市内の取材でも電子投票選挙＝インターネット選挙と考えられており、投票所の投票時に一定の混乱が起きるのではないかと若干の心配をしていました。

つまり、一般の常識では、世代を超えてインターネットの利用が普通、あるいは必須アイテムになっており、むしろ、インターネットを利用しない生活の方がより不便なものと理解されていると言えるでしょう。ただし、ネットにおいては他人の成り済まし、情報の盗み見の問題がより深刻に存在し、選挙投票の匿名性、不正投票の防止が重要な課題だと言えるでしょう。今回の四條畷市のように、電子投票機の投票データを、インターネットを介さず、本体に接続した議事媒体（USB メモリー）に直接記録し、この磁気媒体を専用のケースに封して移送し、開票所に持ち込み、リーダーで読み込み、パソコンに取り込めば、データの漏洩や書き換えという懸念は一掃されると思っています。四條畷市の電子投票選挙でも、ほぼ同様な手順であり、情報漏洩の問題が解消されたと考えるものです。



最も長く電子投票を
続けた六戸町・庁舎
内で模擬投票体験し
ました

電子投票選挙の開票について

大阪府四條畷市の市長・市議補選の開票は、市立市民総合体育館で実施されました。紙

の投票用紙の場合のように、多数のテーブルを並べたり、そこで投票用紙を拾い上げる作業を要しないことで、もっと狭いスペースで開票作業が可能でした。ただし、選挙の開票状況を見守る選挙関係者、あるいは選挙に関心が深い人たちが集まる駐車場スペースの確保という問題は、この体育館を除いて四条畷市内では難しいのかも知れないと推測したものでしたが、体育館の多色的ホールが使用されました。また、今回の電子投票選挙では、8年ぶりということがあってか、作業の在り方が慎重すぎるのではないかと思える時間を要しました。



多目的ホールの前方部分が開票作業スペースで、後方が記者席と一般関連者席。TVカメラは全部2F。

電子投票選挙では、投票所（あるいは開票所）で電子投票機の記録媒体＝USBメモリーを取り出し、集計用のパソコンに順に読み込んでいけばよい（電子投票選挙の一般的な方法）手順でした。

見た目の大きな違いは、開票スペースの縮小化と、開票作業に多くの人出が不要になったと言うことでしょう。さらに、紙の選挙では記入された氏名の判別が一番大きな争点になるものですが、1～10票差を争う選挙では、候補者の記名の読み取り次第で当選者の当落が全く異なる人物に替わってしまうことが生じる可能性があります。電子投票選挙では、投票者自身がどの候補を選ぶかという選択が、画面上で自分が確認し、データ記録化が行えるものです。

電子投票選挙を実施した四条畷市の快挙

大阪府四条畷市の市長・市議補欠選挙は2024年12月15日～21日に実施され、22日が投開票となりました。市長・市議選にはそれぞれ以下の2名が名乗りを上げ、真摯な戦いを演じました。その方々に敬意を表したいと思います。

四条畷市長選候補者 ◎が当選者

◎ぜにや 翔 vs 渡辺 ゆたか

四条畷市議補選候補者 ◎が当選者

ささべ 季湖 vs ◎大原 よしたけ

選挙の投開票というのは、複数の候補者が競って初めて成り立つもので、この選挙でいずれか一方の方のみしか立候補しておられなければ、無投票当選となり、今回の電子投票選挙自体が未実施となっていたわけです。

この四条畷市の電子投票選挙の実施を推進したのは、現職四条畷市長の東修平氏（2期で引退表明！）とそれを支持した議会の皆さん、選管の皆さん、さらには幅広い市民の皆

さんの理解で成立したものです。これまで電子投票実施の 10 自治体の初選挙をすべて見てきた電子投票選挙マニアとして、四條畷市民の皆様に感謝の思いを表明いたします。



四條畷市役所東別館内会議室の電子当選選挙の投票所入り口：投票者の合間をぬって撮影

四條畷市内の投票所の取材、視察詳報



市長・市議補選の投票時間を表した（午前7ー午後8時）幟旗と開票所の総合体育館

視察を行ったのは、市役所東別館の投票所



最初に伺った投票所は、市役所本庁舎の道路を挟んだ東側にある「市役所東別館」でした。建物に入ると、すぐに2階に上がる階段とエレベーターがあり、階段を昇りました。2階に上がると、すぐに投票会場でした。選挙管理委員会の視察受け入れで訪問しているわけではないので、投票会場入り口でストップ。投票所の入り口と出口で様子をうかがうのみでした。

この投票所では、入り口に電子投票機のデモ機がありました。簡略な説明でした。

投票は市長選挙、市議補選の2段階になっており、最初に市長候補の選択を1台の電子投票機で行い、ついで、次の電子投票機で改めて市議補選の候補者を選択する方式になっていました。内部の全容が見えていたわけではありませんが、まず、点字投票を行った方は見かけませんでした。電子投票機の設置台数はよく見えませんでした。片方で4-5台配置されている様子でした。*次の投票所では、電子投票機の配置数と配置状況が外から伺えたので、下段の項目の欄に具体的に表記しました。



<https://www.youtube.com/watch?v=ag#100W,25W>





#2024.12.22.#電子投票選挙,#四条市市.#市長&市議補選.#市役所東別館,##,##,
 #吉田つとむ発見動画チャンネル、



選挙の投票所では、その投票前に「ゼロ票確認」という手続きが行われます。投票管理者が投票箱の蓋を開けて、中がカラである（投票用紙が入っていない）ことを投票にきた最初の有権者に確認してもらうという作業が欠かせません。これは電子投票選挙になっても同様で、電子データがカラであることを確認してもらう作業が行われますが、今回も同様でした。聞いてみると、電子投票データが納められるタブレットに取り付けた USB には、データがゼロであることを、各々のタブレットごとに確認作業が行われたと言うことでした。これまでの電子投票選挙では、土曜日から視察見学したものもあり、このゼロ票確認の場面（午前7時）に居合わせたこともあります。

次いで、視察取材したのは岡部小学校投票所



校舎の玄関を入るとシートが敷いてあり、靴を脱がずに投票所もなっている部屋に進むことになっている。建物内の導線は分かり易くなっていた。また、会場はエアコンの暖房が入っており、従来の体育館に比べ、来場者対応が改善していると言えましょう。

なお、導線で言うと、学校校門から校舎に入る際、徒歩の最短距離方向は夕方では暗さが目立った。明るい部屋を出て、建物の外に出る暗さが目立ち、それが階段になっている点を自身で体験した上で、改善が望まれると判断しました。

その岡部小学校は、大規模マンションがすぐ近くにある投票所でした。午後 5 時頃から午後 6 時頃まで学校の出入り口で電子投票選挙の感想を投票終了者にインタビューを実施。数の集約が目的ではないので、単純で感想を尋ねることにしました。そのインタビューでは、「投票した候補者を聞くのではなく、電子投票選挙の感想を聞かせてください」と話すと、だれでも気軽に返答していただきました。

全員が初めての体験であったにも関わらず、「簡単だった」の一言に尽きたと言う印象が残った。上記のように、この投票所は大型マンションに近く、比較的に若い世代の親子連れが目立った。

有権者にとって、タブレットは普段からなじんでいるものであり、むしろ、聞きなれない氏名を書くより、モニター場面でいずれかを選択するという選択は実に容易であったろう。



投票所内の写真を全く撮っていないが、投票台が 4 台あり、各自にタブレットが 1 台ずつ配置されていた。次に、少し低い位置に、広めの投票台があり、左右に 2 台のタブレットが置かれていました。車いす用の投票台と理解しました。この方々の場合は、間を置かずに、市長・市議補選を行う体制になっていたが、次の投票台は市議補選用の投票台とそれぞれにタブレットが 1 台ずつ置かれていた。車いすの方の入場には遭遇しませんでした。手前が、点字投票の記載スペースになっていたが、訪問中の点字投票者は見当たりませんでした。

なお、従来、新見市における第 1 回目以降の電子投票選挙では、目が見えない方用には、投票者がヘッドホンで選挙の投票方法を音声で聞き、モニター画面で候補者を選択する方法がとられてきた。目が見えないことで電子投票選挙にハンディにはなっていないのが一般的ではないかと理解されました。今回は、それがシステムから外され、電子投票機としては、簡略化されたのでないかと推測しました。

目が見えない方にとってどちらが良いか、あるいは人によって選択ができるかの双方が設置された方が良いか、当事者や関係者の見解を伺いたいと思います。

四條畷市内の開票所の取材、視察詳報

開票作業は事前視察取材時に聞いたように、四條畷市立市民総合体育館でした。その時に、この場所が電子投票選挙の開票場所にふさわしくない、その理由はこのアリーナだと会場が広すぎる、ただし、見学者などの駐車スペースを含めると、市内ではこの場所以外は難しだろうと言う趣旨を述べました。

投開票日（12 月 22 日）の視察においては、まず開票場所の確認を行いました。そのために、まず、四條畷駅に到着してすぐに、四條畷市立市民総合体育館を尋ねました。対区間の玄関には、以下の案内板がありました。

この説明を見ると、アリーナではなく、多目的ホールであることがわかりました。もとより、到着時には、開票所の準備中であり、中には入れてもらえませんでした。この時間にこの場所を訪れる人はまずいないでしょう。今回の視察では、選挙の動向、結果を見る

ためを目的にしたのではなく、あくまで、電子投票選挙の実施状況の把握を目的にしており、クライマックスは開票にあります。その時間になってどの場所に位置すべきか、一人で複数場面を見渡すことはできないので下見を重要と確認次第でした。

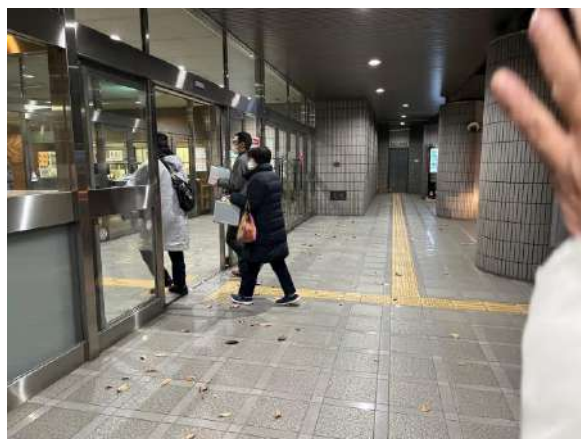


参観席の後方部分が地元記者クラブ席と警察官立会席 手前は選挙陣営関係者や他自治体の選管職員、その他、私のような選挙通（あるいはマニア）が入るスペース。後で大幅に席が増設されていた。

開票会場の四条畷市立市民総合体育館の玄関は、午後 8 時 30 分に玄関ドアが開けられました。



投票所から開票所に投票管理者がタクシーで最初についた瞬間



総合体育館の玄関に投票所から電子投票データを入れた金庫と投票箱を運ぶ担当者が入ってきた。

新聞記者や TV カメラは体育館の中で待ち構えるが、私はタクシーが停まり、第一カ所目、第 2 カ所目から運んできた人を待ち構えるベストポジションを選ぶ。メディア人以上にうまく動画（動画一覧を参照してください）も撮影する位置を確保した。



参観者の一人として、最後列で多目的ホールに向います。私の後方の人たちは、この地域の記者クラブ以外のメディアの記者、カメラマンです。選挙陣営の人や他自治体の選挙管理委員会の人たちは、私の前を会場に向かって歩いています。会場に入ってから分かったことですが、地元の記者クラブ記者の人たちは事前に会場内に入り、すでに、専用区画内の椅子も決まっていた。また、他地区のマスメディアの人たちは会場の階上部分にある観覧スペースでした。



階上の観覧スペースには、私の頭上によそから訪れた大勢のメディア陣が見える

開票作業は午後 9 時 30 分からというアナウンスがありました。随時、投票所から投票データを入れた手提げ金庫と投票箱の開封が行われました。実際には、午後 9 時頃には全部の投票所から全部が届いていたように思います。＊ちなみに、町田市の場合、市域が細長いことで遠隔地からのものは 1 時間以上かかるために、立会人に許可を求めた上で、全部が集まる前に開票作業に入っていました。（選挙の開票立会人の体験あり）それぞれの街の伝統があるようでした。



左側に投票データが置かれる



右側に投票用紙が置かれる

電子投票機の手データは USB メモリーに原本が保存されるという。また、副本は SD カードに保存されたという。一般に電子投票選挙では、開票において原本のみの開票作業が行われる習わしになっており、原本に棄損が無い場合、副本は一切副本の手データは開かれな

いことになっていると聞いてきました。

今回も副本は（封印して）ケースに入れられたままでした。



選挙管理委員と開票立ち会人が開票場の中に入っているはずです。



投票データのケースの確認作業



投票箱の確認作業



元インターン生の中里さんが大阪で仕事をしており、当地の道案内をしてくれました。
私が写る写真は大半、彼が撮影してくれたものです。



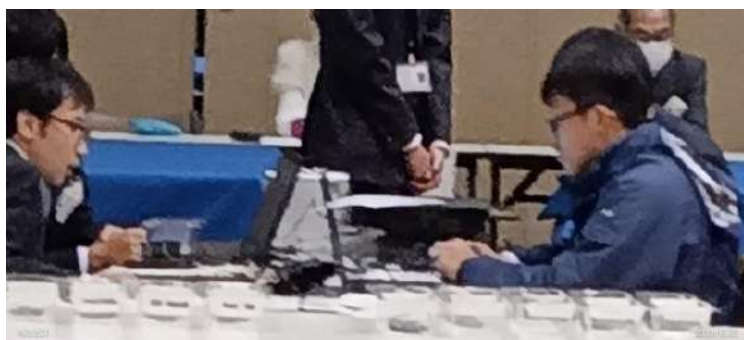
開票した投票箱と投票データを入れていたケースが手前左手に置かれる



ケースから取り出された USB メモリーの確認作業



投票データを入れたケース、手提げ金庫 右は手提げ金庫から取り出された時点



ケースから投票データを収めた USB メモリーが取り出される。ここまでの時間でゆうに 15 分以上を要した。

USB はリーダーを通じてパソコンで読み込み作業が行われる。

他の参観者の話によれば、リーダーは 9 個の USB が差し込まれていると言う。

なお、投票所は全部で 16 カ所、それに期日前投票所が設置されていました。

参観者には、これで瞬時に開票作業が進行すると単純に理解した。今回の電子投票選挙に使用されたタブレットが 200 台ということでした。

そうこうするうちに、投票用紙の開票作業は終了した模様でした。＊郵便で届いた不在者投票の投票用紙分と点字投票の用紙分が開票されました。



膨大な時間を要しました。8年振りの電子投票選挙ということで、慎重さが先を行ったものと解釈しました。

投票結果の発表はあっけないものでした。公選法を満たしているということと、冒頭部分に記載した得票数値と当選人が発表されたのみでした。

評価については、前段で総合的な記載をしました。

今回は視察の報告として、改めて自身のラジカルな評価については別途に記したい。

若干の追記

今回の電子投票選挙では、大阪在住の元インターン生 中里叶夢さんにお世話になりました。大阪で民間企業に就職し、社会人になって以降、初めて会いました。彼がいてくれたおかげで、公共交通、徒歩での道案内を受け、スムーズに進行できました。なお、開票作業が遅くなったことで、最後は翌日の仕事に備え、会場を出てもらいました。元のインターン生が元気に働いていることは自分にとって大変うれしいことでした。



◎開票会場の観覧席スペースにて

◎投票所入り口にて

また、今回の視察取材では、地元の吉田ひろひこ市議会議員に選挙情報収集でお世話になりました。私自身が選挙運動にはまったくかかわっていないことを承知で、電話での取材にご協力いただきました。改めて感謝を申し上げます。なお、12月22日（日）選挙の投開票日、夕方の時間で、市議補選候補者の事務所で初めてご挨拶をする機会を得ました。



なお、上記に記していますが、このささべ季湖候補の得票結果は、

ささべ 季湖 9,093 票

大原 よしたけ 9,128 票

35 票差で落選です。私が開票所にいた時間、この事務所に集まった陣営の皆さん、候補者自身、いかなうな心境であったでしょう。私は選挙のベテランです。町田市議選は 4 期連続トップ当選であり、直近では町田市議選史上最高票を得ています。他方で、私自身が一般選挙で次点の落選経験もあり、今回のような補欠選挙で立候補して惜敗も経験しています。他方で、最下位落選もあります。落選は、まさに当事者にとって苦汁を飲む心境です。とりわけ、補欠選挙においては、候補者数が限られ、今回のように、現職議員の応援もあり、候補者は複雑な心理状態で選挙が進み、結果はそれをはるかに上回る苦痛が起きます。どうぞ、体を壊されないようにしてください。

今回、市長選挙に挑戦した渡辺 ゆたか（市議を引退して挑戦）さんや、ささべ 季湖さんの立候補が無ければ、市長・市議補選の電子投票選挙の投票は行われませんでした。いわゆる無投票当選です。

私が電子投票選挙に来る理由が無くなっていました。全国多数の選挙管理委員会の皆さんが訪れることは無かったでしょう。これほど、TV カメラが四条畷市を訪れることもなかったでしょう。この報告書自体ありませんでした。そうした意味では、お二人は、日本の電子投票選挙の復活の導きを担っていただきました。

今回の四条畷市の皆さん、電子投票選挙実施に当たってそれを支えて来られた皆さん、

選挙運動に参加、かかわった双方の陣営の皆さん、ありがとうございました。そして当選者のお二人の皆さん、おめでとうございます。有難うございました。

開票所では、開票結果の発表が午後 11 時頃となり、会場から走って四条畷駅に向かい、最短の終電は終了し、遠回りの環状線に乗れる学園都市線の終電に乗り、ようやく新大阪にたどり着きました。翌日の市議会日程（2024 年度第 4 回定例会最終日・表決日）を考量し、新大阪泊まり、新幹線新大阪駅始発便乗車で東京方面（新横浜駅経由）に戻り、当時の町田市議会に出席、自分の討論発言要旨の確認、あるいは会派内の賛否の調整、自由判断の確認をする時間を見込んでの町田到着を想定しました。

そして、選挙戦を成立させ、日本で 8 年ぶりの電子投票選挙の投開票に至らせてくれた、市長・市議補選のお二人の落選者に拍手と喝采を送ります。

当方は、公職選挙、8 勝 7 敗。議長選挙 1 勝 2 敗の戦績であることと、電子投票選挙実施自治体の全部 11 自治体の選挙を視察見学してきたことを付記させていただきます。（終わり）